週刊新潮の「‘16医療ルネサンス『注目の名医㉙』」で、当院の青木幸昌理事長が紹介されました。

5月26日号（2016.5.19発売）

注目の名医㉙
●スペシャルインタビュー
Special Interview

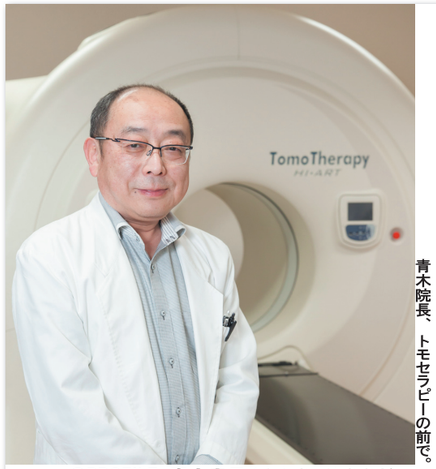
’16医療ルネサンス

千葉県船橋市●末期がんでも見放さない、「一矢報いる」努力を続ける

放射線治療によるがん制御の専門医

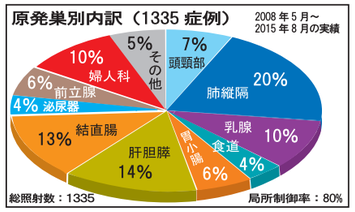
医療法人社団 愈光会
クリニックC4（シーフォー）
理事長 **青木幸昌 医師**

がん治療の三大柱は手術、放射線治療、化学治療。だがこれらは実はがんの原因療法ではないと、クリニックC4理事長の青木幸昌医師は言う。がんを「治す」のではなく「ならない」ための研究はまだまだ遅れている。青木医師がそこを憂えるのは、末期がんと診断され治療をあきらめようとする患者を多く診てきた実感からだ。



青木院長、トモセラピーの前で。

●PROFILE **青木幸昌**（あおき・ゆきまさ）
■日本医学放射線学会専門医。
1980年東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学部放射線医学教室助教授を経て2002年から国際医療福祉大学保健学部放射線・情報科学科教授。2008年医療社団法人 愈光会 Clinic C4設立



がん病巣をピンポイントで照射する特殊技術で知られる

青木医師のもとには国内はもちろん、海外からも末期がんを宣告された患者が訪れる。彼らが求めているのは、がん病巣にピンポイントで放射線を照射する治療だ。

「一般的な放射線治療はがん病巣部だけでなくその周辺にも当てる。つまり健康な細胞も焼け野原にしてしまうんです。そのためにがんはある程度消せたとしても、場合によっては臓器などをあきらめなければならなくなる。また、それだけやっても、がんは再発する可能性がある。その後の人生を考えると、がん治療というのは本当に難しいのです」

青木医師は体内のがん病巣部の形状をほぼ正確に把握し、そこにピンポイントで放射線を照射できるトモセラピーという機器を使い、全身のがん（※血液はのぞく。上図参照）治療にあたる。

「機器というのは道具です。それをどう用いていかに効果が高く、しかもリスクの低い治療を行うかが、医師の知識と経験。私のところには全身にがんが転移しているなど、残された時間や体力にあまり余裕のない方が多いため、多くの部位を同時に、健康な細胞に影響を与えることなく治療する方法を考え、重粒子線や陽子線治療に比べても遜色のない、しかも多くのがん病巣を同時に治療する研究を重ねてきました」

受付

どこの病院でももはや治療はできないと見放された患者にとって、青木医師は〝最後の砦〟といっても過言ではない。彼らが青木医師に賭けるのは、その誠実さを信頼するからだろう。

あきらめる前にもう少し頑張りましょう

「がん治療に100％は残念ながらない。だから私は〝治せます〟とは言いません。一緒に〝一矢報いましょう〟と。見えるがんを放射線で消せば、潜んでいるがんと戦う時間と体力も出てきます。若いからがんの進行が早い、年寄りだからもういいと、あきらめてしまうのではなく、その方の今に最もふさわしい治療を一緒に考えていきましょう」

医療法人社団 愈光会 Clinic C4（クリニックシーフォー）
http://cccc-sc.jp
診察時間◆9:00 ～ 17:00　予約制
休 診 日◆木（午前）、土日祝・年末年始
所 在 地◆千葉県船橋市本郷町618-1
アクセス◆ＪＲ総武線、武蔵野線、京葉線、東京メトロ東西線「西船橋」駅南口徒歩15分。（車利用）京葉道路、原木インター船橋・松戸方面出口から5分。国道14号線（千葉街道）、中山競馬場入口交差点から5分。
診療受付◆　**047-320-1130**
※詳細はホームページをご覧ください。
クリニックC4　検索